研究計画 B02「越境的非国家ネットワーク：紛争と国家破綻」海外調査報告
（B02 研究協力者・佐藤麻理絵：ヨルダン出張［2016 年 10 月 24 日～11 月 13 日］）

文責：佐藤麻理絵（日本学術振興会特別研究員 PD）

2016 年 10 月 24 日から 11 月 13 日にかけて、ヨルダンの各都市（主にアンマン、マフラク、イルビド）において慈善組織への訪問及び参与観察、一次資料収集に加え、特にシリア難民に関する居住形態・環境調査、地理空間情報の収集と分析を行った。また、ヨルダンにおける GIS や各ソフトウェアを用いた空間情報解析に詳しいアール・アル・ベイト大学（マフラク）地球・環境科学研究所所長リダー教授、及び難民や強制移住の分野で最新の調査研究を有するヤルムーク大学（イルビド）難民・避難民・強制移住研究センター代表ファワーズ教授との意見交換を実施した。

今回の調査では、これまで主たる研究対象としてきた首都アンマンに留まらず、北部を中心とした地方都市まで足を伸ばして、より幅広くヨルダンの非国家主体の活動を調査した。そこでは、現在進行形で流入が続いているシリア難民の居住形態や動向を把握することに努め、それにともない変容・拡張する地域の地理空間情報を GPS を用いて収集した。

ヨルダンの難民の居住は都市部に集中しており、なかでもマフラクやイルビドといった北部都市と首都アンマンに顕著であり、彼らへの草の根的な支援活動が様々な慈善組織によって担われている。今回は、これまで調査してきた組織に加えて、新たに生成されているものや、インフォーマルに活動している諸団体を訪問した。特記すべきは、シリア人女性により 2006 年に設立された「シリア女性協会」である。ヨルダン国内では原則全ての NGO は活動に即した関連省庁に登録することが義務付けられているが、同協会はどの省庁にも登録しないことでインフォーマルな活動を行っており、協会本部や支部組織の建物いずれにも組織名やそれを示唆する看板等は掲げられていない。一見するとごく普通のアパートのワンフロアに同協会の本部が設置されており、それぞれ活動内容に即した部屋へと改装されていた。活動内容は多岐に渡り、ヨルダンのシリア難民女性と子供を主な対象にして職業訓練や教育支援、心理ケア、物資・現金支給が実施されている。同協会の代表への聞き取りや活動への同行を経て、活動背景や目的を含む同協会の詳細を元に、非国家主体の理解及び現代ヨルダン政治のより深い洞察を行うことが可能になると考えられる。

一方で、農業地帯を中心に都市以外のリモートエリアに居住するシリア難民の存在も確認することができる。「シリア女性協会」の活動も、そういった地方の沙漠地帯及び農村といった遠方において、テントや簡易の居住空間に身を寄せる難民に対し、到来する冬に備えた物資の支給を行っている。今回はザルカ・バリーに広がる農業地帯において、オリーブの収穫及び選定作業に従事するシリア難民に聞き取り調査を実施し、同時に彼らの労

働環境調査や、作業内容の参与観察を行った。また、各地にある青果卸売市場の中でもジェラシュに設置されている市場に訪れ、オリーブの市場価格や相場、その他の青果物の市場価格及び生産地・販売先の調査を実施した。元々、季節産業であるオリーブの収穫には、シリア内戦が始まる前より国境を超えてシリア人労働者が参画していた。内戦前から存在したシリア・ヨルダン間の労働ネットワークを活かして避難先のヨルダンで生計を立てる彼らは、現在はシリアへの帰還が不可能になったために農場内にテントを張って寝泊まりしたり、農場管理者の建物に居住を始める姿が確認された。

今回の調査ではヨルダン国内の慈善組織という非国家主体を主に調査したが、これらの多くは国外にネットワークを持っており、外からの資金流入や人的交流の存在が見られた。「シリア人女性協会」もトルコ、サウディアラビア、クウェート等に支部を有し、越境的な側面を有する。本側面はこれまでの調査研究でも示唆されるところであるが、ネットワークの実態や構造の解明は、今後更なる調査が必要であると考える。

最後に、今回の調査を実現するために尽力して下さった末近先生をはじめ、関係する皆様に心から感謝の意を示したい。